

☆山口県子ども読書支援センターは平成16年(2004年)4月に、山口県内の子ども読書活動の推進拠点として県立図書館内に設置されました。令和6年(2024年)度、開設20周年を迎えます。

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」

○日時：4月9日(火) 11:00～11:20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度

《3月のおはなし会で使った本》

『ちいさなねこ』 石井桃子/さく 福音館書店 2007.8

『ねんねねこねこ』 ながのひでこ/さく・え アリス館 1996.2

『みーにゃのおともだち』 竹与井かこ/作・絵 教育画劇 2023.5

『さくら』 こがようこ/ぶん・え 大日本図書 2022.2

★山口県子ども読書支援センター開設20周年記念事業「こどもの読書週間」イベント

「春のスペシャルおはなし会」(定員に達したため申し込みは締め切りました)

○日時：4月21日(日) 10:30～11:15 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：幼児・小学生 ○内容：図書館職員による、絵本の読み聞かせ、手袋シアター、紙芝居などのおはなし会

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX:083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

＜絵本-3, 4歳から＞

『おとうとはアボカド?』 トレーシー・ダートン/文 ヤスミン・イスマイル/絵 木城涼/訳 ひさかたチャイルド 2024.1 ¥1800

ママのおなかにおとうとがいるんだって。でも、うまれるまですごくじかんがわかるみたい。さいしょはちいさなたねくらいだったおとうとは、まめつぶくらいになって、めきゃべつくらいになって、いまはアボカドくらい。アボカドってよくわかんない。おせわできるかな。初めてのきょうだい生まれるまでの期待と不安を、身近な野菜や果物に例えて子どもの目線で表現した絵本。

『なんていいひ』 リチャード・ジャクソン/文 スージー・リー/絵 東直子/訳 小学館 2024.2 ¥1800

そとはあめ。いえであそんでいた子どもたちだけど、おんがくをかけておどりだしたら、もうじっとしていられない。かさをさしてでかけちゃおう。スキップして、くちぶえふいて、なんていいひ!やがてあめもやんで…。どんな天気も全身で楽しむ子どもたちの生命力あふれる姿を、のびやかな線で生き生きと描写した絵本。白黒の画面から始まり徐々に色が増えていく構成が鮮やか。

＜絵本-5, 6歳から＞

『なぞなぞどろんのもり』 織田りねん/文 ポプラ社 2024.1 ¥1400

あるあさ、とびきりはやおきをしたひかるは、まどのむこうにみたことのないもりがひろがっていることにきづく。そこへあらわれたのは「め」のついた「すず」。あるいきものがばけているという、そいつのしょうたいは?さあ、いっしょにかんがえながら「なぞなぞどろんのもり」であそぼう!言葉やものの名前を絵柄の組み合わせで表す遊び「判じ絵」をもとにしたなぞなぞ絵本。

＜絵本-小学校低学年から＞

『まぼろしの巨大クラゲをさがして』 クロエ・サベージ/作 よしかずみ/訳 BL出版 2024.1 ¥1800

モーリー博士は、まぼろしの巨大クラゲをさがすため、研究チームとともに北極へ冒険にのりだした。かならず見つけるところにちかかって何週間も調査をつづけるものの、巨大クラゲのすがたはどこにもない。ときにあきらめそうになりながらも希望をすてずにすすむ博士たちの、長年の夢はかなうのか。海の上と下が同時に描かれ、一緒にクラゲを探して博士を応援したくなる絵本。

＜絵本-小学校中学年から＞

『海辺の村のパン屋』 ポーラ・ホワイト/作 いけださちこ/訳 BL出版 2024.1 ¥1600

ぼくのふるさと海辺の村。りょうしをはじめ、船大工やたる職人など寒さと雨風のなかではたらく人がたくさんいる一方、とうさんは安全なところで毎日パンをやくただのパン屋だ。そのことにひげ目のかんじていたぼくだけ、とうさんからパンがみんなの仕事を支えているときいて…。漁村のパン屋だった作者の祖父をモデルにした絵本。ココナッツ・パンズのレシピの付録あり。

＜絵本-中学生から＞

『すきのあいうえお』 谷川俊太郎/ぶん 田附勝/しゃしん ブルーシープ 2023.12 ¥2000

きつね色に揚がった「あられ」、海面を泳ぐ「いるか」…。詩人・谷川が「すき」なもののやことを、「あ」から「ん」まで写真家・田附が全国を旅して撮影した写真で構成する写真絵本。写真のキャプションを小さな黒い画用紙に銀文字で印刷し、絵本の3箇所配置するなど、本の意匠には遊び心が感じられる。巡回展『谷川俊太郎 絵本★百貨展』のために作られたおとな向け絵本。

＜読み物-小学校低学年から＞

『ふしぎなフーセンガム』 麻生かづこ/作 くすはら順子/絵 文研出版 2024.1 ¥1300

家でゆびあみをしたり本を読んだりするのが好きな小学2年生の男子じゅん。母に追い立てられしぶしぶ向かった公園で、乱暴者だと思っていた同じクラスの女子みこと会い、いつもと違う姿を目撃する。不思議なリスからもらったフーセンガムで女の子になり満足するじゅんだが「あたいはあたい」と堂々とするみこに後ろめたい気持ちを感じて…。自分らしさに気付く男の子の物語。

『ナナのおけいこ』 いとうひろし/作 徳間書店 2024.2 ¥1700

ナナはユイが生まれる前からかわれているネコ。ユイはナナがいることで安心して大きくなってきた。ナナもユイの成長を温かく見守ってきた。ところが最近のナナはおもらししてしまったり、堀に跳び上がれなくなったり…。ナナとユイの両方の視点からお互いを思うきずなが温かくユーモラスに描かれる。ナナの姿を通して「若い」と向き合うことを考えるきっかけとなる物語。

<読み物—小学校中学年から>

『ふでばこのくいの冒険』 村上しいこ/作 岡本順/絵 童心社 2024.2 ¥1300

10歳の修人の写真をもとに3Dプリンターで作られたフィギュアのボーイ。家を出ていったママを思って泣く修人の涙をあびて修人の気持ちや声の流れ込み、目覚めたときには動けるようになっていた。寂しさを隠すために乱暴者になってしまった修人を助けるため、ボーイはふでばこの文房具たちと奮闘する。現実に向き合いながら両親を思う少年をボーイの視点で描いた物語。

<読み物—小学校高学年から>

『竜が呼んだ娘』 柏葉幸子/作 佐竹美保/絵 講談社 2024.1 ¥1700

幼いころにいなくなった母の妹と深い谷にある村で暮らしていた少女ミア。この村を出ることができるのは竜に呼ばれた者だけ。10歳を迎える春、竜に呼ばれたミアは王宮で働くことになる。伝説の竜騎士ウスズと魔女星の音にかけられた弓の魔女の呪いを解くため竜に乗って王宮を旅立つ。困難に立ち向かう少女の物語。朝日学生新聞社 2013年刊をもとに加筆・修正した新装版。

『わたしの名前はオクトーバー』 カチャ・ペーレン/作 こだまともこ/訳 評論社 2024.1 ¥1600

少女オクトーバーは父親と二人、森で自給自足の暮らしをしている。11歳の誕生日、4歳の時に家を出て行った「母親とかいう人」がやってきた。ある出来事からオクトーバーはロンドンで母と嫌々暮らすことに。自分を取り巻く環境が変化中、様々な葛藤を抱えながら成長し、家族や友人に心を開く少女の様子を詩的な表現で描く物語。本書で2022年カーネギー賞を受賞。

<読み物—中学生から>

『八秒で跳べ』 坪田侑也/著 文藝春秋 2024.2 ¥1700

宮下景は高校2年生で男子バレー部の先発メンバーの一人。春高予選準々決勝の数日前、自転車に乗って転倒し、足を痛めたことを隠して練習試合に臨んだ景は、最終セットに足首靭帯を損傷する。試合は景と同中の北村が出場するがチームは敗退。通院する景とチームメイトとの関係にも変化が現れ…。好きなこととの向き合い方に悩む高校生たちの物語。現役大学生作家の第2作。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『こどものためのもしもマニュアル』 佐藤健/監修 理論社 2024.1 各¥2,500

火事や地震などの緊急事態が起きた時に使うかもしれない設備や道具について紹介する。全2巻。1では建物の中にある設備、火災報知器・消火器・避難階段・避難おしご・非常ボタンを取り上げ、機能や使い方、設置場所等について写真やイラストを用いて分かりやすく解説。2では町の中の設備・道具を取り上げる。身近にできる災害への備えについて親子で学べる図鑑絵本。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『気をつけよう!海賊版・違法ダウンロード1』 上沼紫野/監修 汐文社 2024.1 ¥2600

「海賊版」とは作者に無断で複製された違法なもの。漫画や小説、アニメ、映画、音楽などはそれぞれの作者が多くの時間や労力、資金をかけて作ったものであり海賊版が存在することで様々な権利が侵害される。海賊版の生まれた理由や影響、違法ダウンロード問題、正規品との見分け方等を分かりやすく解説する。作品を正しく利用するための知識について伝えるシリーズ。全3巻。

『サバイバル!危険昆虫大図鑑』 中野富美子/構成・文 丸山宗利/監修 あかね書房 2024.1 ¥4500

危険な昆虫たちの毒や攻撃は、自分たちが生き残るサバイバルのための行動。人間にとって危険な昆虫やその他の節足動物を徹底解説する図鑑。攻撃の様子や毒をもつ器官などを、迫力の生態写真で紹介。各虫について実物大のシルエット、特徴、襲われた場合の状態などを詳しく解説。巻末には、病状や手当の仕方、予防等をインターネットで調べるためのサイトの紹介等の掲載あり。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『9歳から知っておきたいAIを味方につける方法』 TOSS AI活用教育研究会/編 谷和樹/監修 マイクロマガジン社 2024.2 ¥1500

「ChatGPT」をはじめとする生成AIとは、まるで人間のように文章を書いたり絵を描いたりする「人口知能」。便利な機能をたくさん持っているけれど、苦手なこともあれば危険なこともある。生成AIの特徴を理解し、よりよい方向に使っていきけるよう生成AIの仕組みや正しく安全で便利な使い方を分かりやすく説明する。子どもたちにかかわる大人も一緒に読みたい1冊。

『捨てられる魚たち』 榎本春幸/著 講談社 2024.1 ¥1300

漁師のとった魚の3割は「未利用魚」として捨てられている。地元鹿児島県の未利用魚を活用し著者が試行錯誤の末に完成させた「桜島灰干し弁当」は、九州県民祭グランプリや農林水産省の食文化賞を受賞。フードロス問題や日本の食文化・伝統、さらに働くことで人の役に立つことの喜び等が、自身の活動を元にならされる。筆者は食育日本料理家で講演活動や商品開発でも活躍している。

<ノンフィクション—中学生から>

『知図を描こう! あるいてあつめておもしろがる』 市川カ/著 岩波書店 2023.12 ¥1450

「知図」とは、自分の足で歩いて気になったモノやコトを自由に描く、自分だけのオリジナルな好奇心の記録のこと。自分の身近なところに目を向け、気づきや思いついたことを記録するうちに、いつのまにか好奇心の感度が上がる。好きなことや得意なことがない、何をしてもわからないという人におすすめの1冊。岩波ジュニアスタートブックス。

<研究書>

『絵本で実践!アニメーション 子どもの力を引き出す26のプログラム』 木村美幸/著 北大路書房 2024.1 ¥2200

「アニメーション」とは読書活動のひとつ。本書では「アニメーション」を初めて実践する人から、ある程度実践したことのある人まで対象にし、初級・中級・上級と、段階に応じたプログラムを紹介。著作権やブックトーク、絵本の作り方などにも言及している。著者は老舗の児童図書出版社に長年勤務し、子どもと「絵本」の出会いの場の一つとして、アニメーションの実践を重ねている。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。取書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>
来月号より、掲載内容を一部変更してお届けいたします。

